

「問題二」 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

長い人間の歴史をふり返ったとき、とくに近代以前の厳しい環境においては、ただ食を確保し、子孫をもうけ、生をつないでいくこと自体がきわめて困難な i 営みであったであろうことは、容易に想像することができる。 A 人間はそのような状況のなかでも、ただ生きることだけをめぐってきたのではなく、 B 自分の周りにある自然の美しさに目を向け、それから受けた感動を詩や歌で表現したり、あるいは親しい者、愛する者の死に接して、人のいのちのはかなさを思い、生きることの意味について考えたりしてきた。あるいは人生や社会のなかでさまざまな苦難に出会ったり、 a 予ジユンを目のあたりにしたときに、心の b 安ネイを得る道を探ったり、あるべき社会のあり方について c 思サクを重ねたりしてきた。

そのような ii 営みを、大きく文化という言葉でひとくくりにすることができるであろうが、それによつてわたしたちはわたしたちの生活を豊かなものにしてきた。文学や芸術、宗教や哲学という iii 営みがなければ、わたしたちの生はきわめて貧しいものになっていたにちがいない。

文化は、環境などさまざまな条件のもとで、そして長い歴史のなかで作られられてきたものであり、それぞれに独自の内容をもつ。それぞれの文化はそのなかで生きる人々のものの方や価値観に結びついている。そのためわたしたちは、異なった文化に出会ったとき、しばしばその違いに驚かされることがある。たとえば外国に出かけたときに、ある種類の肉を絶対に口にしない人や、外出するとき必ず頭にかぶりものをする人に出会ったとき、その厳格な意志にはいつも驚かされる。

ふり返ってみれば、明治の初め、西洋文化に出会ったときの人々の驚きはきわめて大きなものであったと考えられる。産業や軍事に関わる技術、議会や学校、郵便などの制度、洋服や断髪といった風俗など、すべてのものが驚きの対象であったにちがいない。福沢諭吉は幕末から明治の初めにかけて刊行した『西洋事情』の初編の冒頭で「文明の政治」について論じ、それに求められる第一の要件として「自任意」を挙げた。liberty, freedom という言葉を福沢はこのように訳したのであるが、それを、国法が寛かゆよで人を束縛しないこと、また人が貴賤きせんの区別なく、みずからの意思に従つて職業に従事し、みずからの才能や力を発揮することと説明している。『西洋事情』の冒頭で福沢が「自由」について論じたことは、福沢が I そこに日本の政治や社会と西洋の II それとのあいだのもつとも大きな違いを見ていたことを示している。日本の近代の歴史は、この明治の人々が抱いた驚きを消化し、 III 自己のうちに内化していくプロセスであったと言ってもよいかもしれない。

文化の出会いがもつ意味は、何より、わたしたちを、自己自身の文化の枠組みのなかでは見えないもの、 C 異なったものの方や世界観に目を向けさせるといふ点にある。わたしたちはそれに驚いたり、あるいはそれによつて自分の世界観を揺さぶられたりすることを通して、みずからを顧みる目と、他者に対する共感の心とを養ってきた。そのことを通してわたしたちはわたしたちの文化をいつそう豊かなものにするともに、他者との共存の基盤を形成してきたのである。他者との出会いこそが、わたしたちがわたしたちの文化を豊かにする源泉でもあったと言うことができる。

しかし、いま、そのようなわたしたちが長い時間をかけて作りあげてきた iv 営みが大きな危機に直面している。それは、いま世界全体を覆っているグローバル化の波と深く関わっている。グローバル化は多くの利便をもたらしたはしたが、しかし他方で、わたしたちの社会のなかに多くの問題を引きおこしつつある。

人々の関心がただ経済的な利益を追求することにのみ向けられるようになったことが、いちばん大きな問題であると言えるかもしれない。そして、なりふりかまわぬ利益追求によつて、さまざまな場所

で格差が生まれ、対立や軋轢あつれきが生まれている。それは先進国でも途上国でもかわらない。民族や宗教、肌の色や性別、政治的な見解など、さまざまな観点から異質なものを発見し、その「**X**」を誹りそし、排斥することで、自分自身のアイデンティティや存在意義を確認しようとする風潮が生まれている。

このような状況のなかで、文化と文化、民族と民族、宗教と宗教のあいだの溝がいつそう深くなる方向へと動き始めている。長い時間をかけて作りあげられてきた文化や、他者との共存の「**V**」営みに亀裂が入ろうとしている。ここで踏みとどまらなければならないという思いが強くしている。

そうした状況にすぐに有効性を発揮する対処法があるわけではない。それぞれがそれぞれの歴史や文化を担っていることを認め、尊重しあうことから出発する以外に道はない。そういう姿勢をもちながら互いに対話することが、いま改めて求められているのではないだろうか。人類はこれまでも異質なものに触れ、そこから刺激を受けることよってみずからの文化を、そしてみずからの生を豊かにしてきた。異なった文化や考え方は、お互いがお互いを豊かにしうる源泉なのである。その原点にいま立ち戻る必要を強く感じている。

（藤田正勝『日本文化をよむ 5つのキーワード』より）

問一 傍線部 a ～ c のカタカナの部分と同じ漢字を含む熟語を、次の中から一つずつ選びなさい。
解答は a ～ c の順にマーク用解答用紙の 1 ～ 3 にマークしなさい。

- ① 交錯 ② 寛厚 ③ 批准 ④ 循環 ⑤ 丁寧
- ⑥ 搜索 ⑦ 策略 ⑧ 泰平 ⑨ 木盾 ⑩ 添削

問二 空欄 A ～ C に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 4 にマークしなさい。

- ① (A) また B すなわち C あるいは
- ② (A) また B すなわち C つまり
- ③ (A) また B たとえば C あるいは
- ④ (A) また B たとえば C つまり
- ⑤ (A) しかし B すなわち C あるいは
- ⑥ (A) しかし B すなわち C つまり
- ⑦ (A) しかし B たとえば C あるいは
- ⑧ (A) しかし B たとえば C つまり

問三 傍線部 I の「そこ」、傍線部 II の「それ」が指す内容の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選び答えなさい。解答はマーク用解答用紙の 5 にマークしなさい。

- ① 「そこ」 …… 「自由」 「それ」 …… 政治や社会
- ② 「そこ」 …… 『西洋事情』 「それ」 …… 「自主任意」
- ③ 「そこ」 …… 「文明の政治」 「それ」 …… 「自主任意」
- ④ 「そこ」 …… 西洋文化 「それ」 …… 驚き
- ⑤ 「そこ」 …… 「自主任意」 「それ」 …… 歴史

問四 傍線部 III 「自己のうちに内化していく」とはどのようなことか。本文中の語句を用いて三十文字以内(句読点・記号等も字数に含む)で答えなさい。解答は記述用解答用紙に書きなさい。

問五 空欄 X に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び答えなさい。解答はマーク用解答用紙の 6 にマークしなさい。

- ① 文化 ② 営み ③ 歴史 ④ 他者 ⑤ 自由

問六 傍線部 v の「営み」が指す内容と同義で用いられているものを次の中から一つ選び答えなさい。解答はマーク用解答用紙の **7** にマークしなさい。

- ① 傍線部 i の「営み」 ② 傍線部 ii の「営み」
③ 傍線部 iii の「営み」 ④ 傍線部 iv の「営み」

問七 本文の内容・趣旨として適切ではないものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の **8** にマークしなさい。

- ① 人間は厳しい環境の中でも、自然の美しさや人生の意味を考え、詩や歌、哲学などを通じて文化を築いてきた。文化は生活を豊かにし、文学や芸術、宗教、哲学がなければ人生は貧しいものになる。
- ② 文化は歴史や環境の中で独自に形成され、人々の価値観や見方に結びついている。異なる文化に触れることで驚きや共感を覚え、自分自身の文化を見直す機会となる。
- ③ 現代のグローバル化は利便性をもたらす一方で、経済的利益の追求が優先され、社会に格差や対立を生んでいる。異質なものを排斥する風潮が強まり、文化や共存の営みに亀裂が生じている。
- ④ 文化や歴史を尊重し合い、対話を通じて共存の基盤を築くことが求められている。異なる文化や考え方はお互いを豊かにする源泉であり、その原点に立ち戻る必要がある。
- ⑤ 文化的多様性を保護するためには、すべての人が自分の文化を表現し、享受する権利を持つことが重要であり、言語の多様性や教育の機会の均衡が求められる。

「問題二」 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお本文中の①～⑤は段落番号である。

際限なく続く仕事

① 働き方改革が進められていくなかで、仕事の量は変わらないという方も多いのではないだろうか。生産性を上げなければ、仕事は溜まる一方だ。労働時間を短くしたことはいいが、仕事をこなしても、新しい仕事が増えて、残ったタスクは一向に減らないどころか、増えていくばかりだ。そんな状況に陥ると、人は労働意欲をなくしてしまう可能性が高い。そのような状況は、まさに苦行である。

② 「シーシュポスの岩」というギリシャ神話をご存知の方は多いだろう。シーシュポスは、神々を欺いた罰で、巨大な岩を山頂まで上げるように命じられた。この巨大な岩は、シーシュポスが必死で山頂近くまで押し上げてきて、あと少しのところまで近づくと、底まで転がり落ちてしまうのである。そのため、シーシュポスは際限のない苦行を続けることになる。日本にも「賽の河原の石積み」という似た話がある。小さい子どもが親に先立って死んだ場合に、賽の河原で石積みをすると言われている。石で仏塔を積み上げていると毎晩、鬼がそれを崩してしまつて、完成しないというものだ。永遠に仕事が完成しないものをつけていくことはつらい。

③ **A**、この際限のない仕事をするこのつらさはどこからくるのだろうか。仕事が完成しないということがつらいのだろうか。それとも、どれだけ仕事をして、それがすぐに元の状態になり、仕事をしたことに意味がないと感じられることがつらいことなのだろうか。シーシュポスの岩の場合は、仕事が一回も完成しないで、岩が落とされ続ける。 **B**、賽の河原の石積みの場合は、毎晩完成した仏塔が鬼によつて崩される。 **I** 後者の場合は、仕事は完成しているのに崩されるという意味で、 **a** 無駄な仕事をし続けていることになる。崩されることがわかっているのに仕事を続けることがつらいのだろうか。

「シーシュポスの岩」の実験

④ シーシュポスの岩あるいは賽の河原の石積みをすることで、私たちはどれだけ仕事の意欲を失くしてしまうのだろうか。このことを明らかにするためにアメリカの研究者たちは、興味深い実験を行った。彼らは、レゴブロックのバイオニクルというキャラクターを組み立てる作業をハーバード大学の学生たちにもしてもらつた。

⑤ 一つのバイオニクルは40個の部品でできていて、組み立てるのに約10分かかる。彼らは、組み立てたバイオニクルの個数に応じて賃金をもらつた。最初の1組を完成させると200円、次の1組は189円と、完成させる数が増えるごとに11円ずつ金額が減っていく。ただし、20組以上作つたら、それ以降は1組あたり2円で一定になる。もし、あなたが実験参加者ならバイオニクルをいくつ作るだろうか。10分で200円ももらえるなら悪くない。でも、10分かけて2円ならもう作らないだろう。どこかで作ることをやめるに違いない。

⑥ 実験に参加した学生たちは、2つのグループに分けられていた。一つのグループでは、完成したバイオニクルが学生の前に並べられた。もう一つのグループでは、学生が次のバイオニクルを組み立てている間に、隣に座った係員が完成したばかりのものをすぐに崩してしまうのだ。研究者たちは、最初のグループを「意味のある条件」、2つめのグループを「シーシュポス条件」と呼んだ。

⑦ この2つのグループでは、組み立てたバイオニクルの数が同じであれば、どちらも同額の賃金が支払われる。つまり、仕事の成果に応じた **b** 報シユウは、どちらの条件でも全く同じである。賽の河原の石積みの例でいけば、際限なく新しい仏塔を作り続けるけれど、それが壊されない場合が意味のある

条件である。一方、賽の河原のように作った c 卜端に鬼に崩されてしまうのがシーシユポス条件である。シーシユポスの岩や賽の河原の石積みと違うのは、仕事に対する報シユウそのものが、毎回存在することである。2つのグループで違うのは、即座に壊されるのか、作ったものがその場では壊されないのか、という点だけである。

⑧ 実験結果はどうだっただろうか。意味のある条件では、学生たちは、平均10.6個のバイオニクルを組み立て、1440円を手にした。一方、シーシユポス条件では、学生たちは平均で7.2個しか組み立てず、1152円しか手にできなかった。つまり、バイオニクルを作ったことを実感できる状況なら努力をするが、すぐに壊されてしまつて仕事をしたことが実感できない状況では、やる気が出ないということだ。

⑨ 金銭的な報シユウだけを目的に人が仕事をしているのであれば、どちらの条件でも、実験参加者は同じだけのバイオニクルを作ったはずだ。しかし、意味のある条件の方が、シーシユポス条件よりも、実験参加者は、平均で3.4個多くのバイオニクルを作り、288円より多く稼ぐことができた。つまり、意味のある仕事には、金銭的な価値以上の価値を見出すから人々は努力するのである。

意味のある仕事

⑩ 同じ報シユウなのに、作ったバイオニクルを目の前に並べるといっただけでも仕事の意欲が増す。意味のある仕事ができたと認識できると意欲が増すということが、この研究の結果だ。このことは、私たちが仕事への意欲を高めるためのヒントを提供してくれる。

⑪ 第一は、仕事そのものに意味があると実感できることである。これは、仕事から i な喜びを感じることであれば、仕事そのもののつらさが和らぐということだ。人のために役立つ ii に意味のある仕事であると認識できれば、同じ仕事であっても、労働意欲が湧く。逆に言えば、 iii に意義がある仕事であれば、そうでない仕事よりも低い賃金で仕事をしてもいいと思うのだ。

⑫ 第二は、仕事をしたことが実感できることである。完成したバイオニクルを目の前に並べてもらった実験参加者のやる気が高かったのは、完成したバイオニクルが壊されないということの意味のある仕事をしたと感じられることに加えて、どれだけの数のバイオニクルを作ったかという達成感をより感じられることも重要だろう。それによつて意味のある仕事をしたと感じているのかもしれない。そうであれば、自分がした仕事か、どれだけのかを一目でわかるようにしておくことは、自分が意味のある仕事をしたと認識しやすいことになる。

⑬ 仕事を一つしても、新たな仕事が入つてきて、残っている仕事が減らない状況に直面したとしよう。残っている仕事だけが表示されるとすれば、どれだけ仕事をして、仕事をしたことにならないように思つてしまう。これは、シーシユポス条件と同じ状態にある。これではやる気が出ない。

⑭ 新たに入つてきた仕事はひとまず置いて、仕上げた仕事の数がはつきりとわかるようにしてはどうだろうか。そうすれば、やり遂げた仕事の価値を実感できる。毎日仕上げるべき課題をリストアップして、それを終えたことを目に見えるように消していけばいい。あるいは、今日した仕事をリストアップしてもいい。毎日、どれだけの仕事をしたかを記録していくことだ。毎日の仕事が全くの無駄ではなく、毎日きちんと成果を出して意味のある仕事をしていることが実感できる。

⑮ 私たちは、 X 仕事ばかりに目を向けがちだが、 Y 仕事を目立つようにしていくことで、仕事への意欲も高まる。ちょっとした工夫で、忙しい毎日を乗り切っていきたいものだ。

(大竹文雄『行動経済学の使い方』より)

問一 傍線部 a ～ c のカタカナの部分と同じ漢字を含む熟語を、次の中から選びなさい。解答は a ～ c の順にマーク用解答用紙の 9 ～ 11 にマークしなさい。

- ① 執事 ② 醜聞 ③ 応酬 ④ 徐行 ⑤ 過多
- ⑥ 就職 ⑦ 途中 ⑧ 除籍 ⑨ 駄馬 ⑩ 蛇足

問二 空欄 A ・ B に入る最も適切な語を、次の中から選びなさい。解答は A ・ B の順に

マーク用解答用紙の 12 ・ 13 にマークしなさい。

- ① ところで
- ② かつ
- ③ しかし
- ④ もしくは
- ⑤ 一方
- ⑥ 例えば

問三 傍線部 I に「後者」とあるが、これが指す内容として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 14 にマークしなさい。

- ① 労働時間を短くしたが、仕事をこなしても新しい仕事が増えてタスクが増え続いでいく状況
- ② シーシュポスの岩のように完成した仕事が崩される状況
- ③ 賽の河原の石積みのように仕事が一回も完成しない状況
- ④ シーシュポスの岩のように仕事が一回も完成しない状況
- ⑤ 賽の河原の石積みのように完成した仕事が崩される状況

問四 空欄 i ～ iii に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 15 にマークしなさい。

- ① (i 金銭的) ii 社会的 iii 非社会的)
- ② (i 金銭的) ii 社会的 iii 社会的)
- ③ (i 金銭的) ii 非社会的 iii 非社会的)
- ④ (i 金銭的) ii 非社会的 iii 社会的)
- ⑤ (i 非金銭的) ii 社会的 iii 非社会的)
- ⑥ (i 非金銭的) ii 社会的 iii 社会的)
- ⑦ (i 非金銭的) ii 非社会的 iii 非社会的)
- ⑧ (i 非金銭的) ii 非社会的 iii 社会的)

問五 空欄 X ・ Y に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選
びなさい。解答はマーク用解答用紙の 16 にマークしなさい。

- ① X 意味のある Y 意味のない
- ② X 意味のない Y 意味のある
- ③ X 意味のある Y 意味のある
- ④ X 意味のない Y 意味のない
- ⑤ X 残っている Y 仕上げた
- ⑥ X 残っている Y 残っている
- ⑦ X 仕上げた Y 仕上げた
- ⑧ X 仕上げた Y 残っている

問六 本文中には次の段落が抜けているが、この段落はいずれの段落の後に続くのが最も適切か。次
の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解答用紙の 17 にマークしなさい。

- ① 10段落 ② 11段落 ③ 12段落
- ④ 13段落 ⑤ 14段落 ⑥ 15段落

極端な場合には、無報シユウでも仕事をしたいと思うこともあるだろう。被災者の救援のため
のボランティアをするというのはこのような場合だ。ボランティアでなくても、同じような仕事
であっても、公的な仕事は民間企業の仕事よりも給料が低いことが多い。これは、社会の役に立
っているという意識そのものが喜びになるので、給料が低くても労働意欲が出てくるからだとい
積できる。

問七 本文の内容・趣旨として適切ではないものを、次の中から一つ選びなさい。解答はマーク用解
答用紙の 18 にマークしなさい。

- ① ギリシャ神話の「シーシュポスの岩」や日本の「賽の河原の石積み」の例えを用いて、終わ
りの見えない仕事の苦しさを説明している。
- ② アメリカの研究者が行った実験では、意味のある仕事と意味のない仕事の条件で、学生たち
の労働意欲に違いが出る事が示された。
- ③ 完成した仕事を目に見える形で記録することで、達成感を感じやすくなる。
- ④ 仕事に対する金銭的な対価は労働意欲を高める上で欠かすことのできない要因である。
- ⑤ 現代の労働環境においても、終わりの見えない仕事や無意味に感じるタスクは、労働意欲を
低下させる要因となる。

「問題三」 次の各問いに答えなさい。

問一 次のア～オは四字熟語の前半部分である。正しい四字熟語となるように、後に続く二字を、後の〈語群〉から選びなさい。解答はア～オの順にマーク用解答用紙の19～23にマークしなさい。

ア 興味
イ 玉石
ウ 厚顔
エ 責任
オ 単純

〈語群〉

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ① 混交 | ② 無知 | ③ 転化 | ④ 明解 | ⑤ 津々 |
| ⑥ 深々 | ⑦ 転嫁 | ⑧ 金光 | ⑨ 無恥 | ⑩ 明快 |

問二 次の一文の傍線部 a～e の品詞を、後の〈語群〉の中からそれぞれ一つ選びなさい。ただし、各選択肢は一度しか選べないものとする。解答は a～e の順にマーク用解答用紙の24～28にマークしなさい。

永いあいだ、私は自分が生まれたときの光景を見ることがあると言いつ張っていた。a それを言
出すたびに大人たちは b 笑い、しまいには自分 c がからかわれているのかと思つて、d この
蒼ざめた子供らしくない子供の顔を、e かるい憎しみの色さした目つきで眺めた。

(三島由紀夫『仮面の告白』より)

〈語群〉

- | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|------|
| ① 動詞 | ② 形容詞 | ③ 形容動詞 | ④ 名詞 | ⑤ 副詞 |
| ⑥ 連体詞 | ⑦ 接続詞 | ⑧ 感動詞 | ⑨ 助動詞 | ⑩ 助詞 |

